



# 宮崎大学学術情報リポジトリ

## University of Miyazaki Academic Repository

ヴァロワ家ブルゴーニュ公の公位継承と公妃の宣誓(2) : デイジョン都市特権確認文書

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部 公開日: 2013-06-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中堀, 博司 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10458/4509">http://hdl.handle.net/10458/4509</a>

## ヴァロワ家ブルゴーニュ公の公位継承と公妃の宣誓 (2) ——ディジョン都市特権確認文書——

中堀博司

### L'avènement du nouveau duc de Bourgogne de la maison de Valois et le serment de la duchesse (II) : lettres de confirmation des privilèges de la ville de Dijon

Hiroshi NAKAHORI

#### 1. はじめに

B.グネが提起して以来、入市式が中世後期から近世にかけての重要な政治的コミュニケーションの機会かつ場であったことに多言を要さないであろう。入市式に際して、多くの諸身分や重要な人物が集えば集う程その意義が増すのは言うまでもない。それ故に、身分制議会に匹敵するその意義と儀礼の重要性が強調されてきたのである<sup>1)</sup>。しかし入市式が豪華絢爛であろうとも簡古素朴であろうとも、この儀式の中心に置かれるのは、とりもなおさず都市領主と都市共同体の間に取り交わされる宣誓および特権確認である。ディジョンにおいてこれら宣誓や特権確認は、前稿で取り上げたディジョン入市式次第の第5条項から第9条項にかけて示されるように、サン・ベニーニュ修道院における一連の儀式の中で執り行われた。ここで取り上げる史料は、前稿の分類で言えば、分類②「新公と都市ディジョンとの間に交わされた宣誓」にあたる<sup>2)</sup>。

以下では、ヴァロワ家第3代ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボン(善良公)によるディジョン入市を中心に、まずディジョン都市特権確認文書とそれに関連する若干の史料の伝来について説明を加えておきたい。

#### 2. 史料の伝来

本稿で取り上げるディジョン都市特権文書および同確認文書は、19世紀ディジョンの高名なアルシヴィストであるJ.ガルニエの手になる『ブルゴーニュにおけるコミュン文書と解放文書』(1867-1877年、全3巻)において既に刊行されている(以下、同書に掲載された文書は「ガルニエ版」と呼ぶ)。また、この浩瀚な史料集の極めて詳細な解題(『序論』)は、ガルニエ没後にブルゴーニュ法史家E.シャンポによって1918年に別冊の形で完結された<sup>3)</sup>。次の表1「ヴァロワ家歴代ブルゴーニュ公によるディジョン都市諸特権の確認」は、ガルニエ版ほかをもとにした、ヴァロワ家四代のブルゴーニュ公によるディジョン都市特権確認文書の一覧である。

表1 ヴァロワ家歴代ブルゴーニュ公によるディジョン都市諸特権の確認

※典拠 GARNIER, Jh., *Chartes de communes et d'affranchissements en Bourgogne*, Dijon, Rabutot / Darantière, 1867-1877, 3 vol. ; PLANCHER, Dom U. / MERLE, Dom Z., *Histoire générale et particulière de Bourgogne*, Dijon, 1739-1781 (2e éd., Paris, 1974), 4 vol. ; PÉRARD, E., *Recueil de plusieurs pièces curieuses servant à l'histoire de Bourgogne*, Paris, 1664 (d'après Garnier) ; AMDi, B 114.

※※略号 B=ブルゴーニュ、D=ディジョン

ブルゴーニュ公	生年月日 ○	没年月日 †	ディジョン都市 特権確認 年月日	典拠
フィリップ・ル・アルディ Philippe le Hardi	○ Pontoise, 1342.1.17	† Hal/Halle, 1404.4.27	1364.11.26	Garnier, t. I, p. 69-72, no. LXI ; Plancher, t. III, p. xi-xii, pr. no. XXI ; Pérard, p. 367 ; AMDi, B 114, f. 52 v.- 53 v. Cf. Schnerb, <i>L'Etat</i> , p. 44-46 ; Petit, <i>Itinéraires</i> , p. 15, 459.
ジャン・サン・ブル Jean sans Peur	○ Dijon, 1371.5.28	† Montereau, 1419.9.10	1404.6.17	Garnier, t. I, p. 90-92, no. LXXI ; Plancher, t. III, p. ccxxxix, pr. no. CCXXXVII ; Pérard, p. 387 ; AMDi, B 114, f. 94 r.
フィリップ・ル・ボン Philippe le Bon	○ Dijon, 1396.7.31	† Brugge/ Bruges, 1467.6.15	1422.2.19	Garnier, t. I, p. 94-96, no. LXXIII ; Pérard, p. 388 ; AMDi, B 114, f. 94 v.
シャルル・ル・テメレール Charles le Téméraire	○ Dijon, 1433.11.11	† devant Nancy, 1477.1.5	1474.1[.23]	Garnier, t. I, p. 108-109, no. LXXVIII ; Pérard, p. 382 ; AMDi, B 114, f. 99 r.- v.

これらの文書は、ディジョン都市文書集（カルチュレール）に系統的に転写されているが<sup>4)</sup>、その他の都市文書をも含めて歴代ブルゴーニュ公による都市特権文書および同確認文書の原本（Archives municipales de Dijon = AMDi, B 2）からガルニエによって体系的に刊行された。但し、ガルニエはそれ以前の刊本をも利用しており、都市特権確認文書原本を底本として翻刻したかどうかは実際のところわからない<sup>5)</sup>。第2代公ジャンが都市ディジョンに賦与した特権確認文書については、プランシェ師も都市文書集を用いて刊行している<sup>6)</sup>。本稿では、第3代公フィリップが一連の儀式の中で賦与した都市特権確認文書を、ガルニエ版を参照しつつ都市文書集より翻刻・試訳するとともに、都市ディジョンの評議会審議録を利用してブルゴーニュ公と都市ディジョンとの間における入市前後の遣り取りを可能な範囲で詳らかにしたい<sup>7)</sup>。

ところで、公国約百年の間、ブルゴーニュ公の宮廷は一体どこに所在し、どのようにして歴代公たちはディジョン入市を果たしたのであろうか。本題に入る前に、まずこの点を考えてみたい。

### 3. 移動宮廷と首都ディジョン

都市ディジョンは、ヴァロワ家ブルゴーニュ公の到来とともに、名実ともにブルゴーニュ公領の首都となり、さらに1384年以降は北方の低地地方をもあわせたブルゴーニュ公国の首都となった。ブルゴーニュ公領の西側に隣接するヌヴェール伯領については、第2代公ジャンの治世から傍系筋によって相続されるが、公領および伯領の両ブルゴーニュは、監査・監督機関であるディジョン会計院が管轄し、行政的なまとまりをなした。むしろブルゴーニュ公本家の首都ディジョンが公国南部領域全体の中心都市であり続けたことは間違いない。また、北部の領域全体では並行して会計院の置かれた都市リルが、南部のディジョンに匹敵する行政中心地として重要な役割を果たしていくことになる<sup>8)</sup>。

ブルゴーニュ公のディジョン滞在についてE.プティやH.ファンデル・リンデンらによる旅程研究から表にまとめたものが、表2「四代ブルゴーニュ公のディジョン滞在（1363-1477年）」である<sup>9)</sup>。表2の縦軸は「年」、横軸は「月」を示しており、原則として縦（年）・横（月）が交差する欄（マス）にブルゴーニュ公がディジョンに滞在した日を記した。この表から一見してわかるのは、初代公フィリップ（豪胆公、ブルゴーニュ公在位1363〔フランドル伯ほか位1384〕-1404年）が妻のフランドル女伯から広大な領土を獲得するまでは極めて頻繁にディジョンに滞在したこと、そして最後のシャルル（突進公、在位1467-1477年）に至っては公位を継承してからたった一度しかディジョンを訪れていないことである。なお、先代の公が亡くなった後、太字に下線を施しているのが新公によってディジョンへの入市が行われた日になる。

ブルゴーニュ宮廷史の大家W.パラヴィッチーニの分析を援用すると、初代公フィリップの治世前半1363~1384年の間、ブルゴーニュ公のパリ地方滞在が38%、ブルゴーニュ地方滞在が36%弱で、概ねパリとディジョンの間を往復していたことがわかる。フランドル伯領ほかの低地地方を獲得した治世後半の1384~1404年の間では、パリ地方滞在が57%と圧倒的で、アルトワ地方とブルゴーニュ地方の滞在がそれぞれ15%と10%となる。言うまでもなく、初代公はフランス王シャルル5世（在位1364-1380年）の弟で、またシャルル6世（在位1380-1422年）の叔父にあたり、ブルゴーニュ公はフランス筆頭諸侯であったため王国統治においても重要な役割を担っていた。パリとフランドルの間に位置するアルトワでの滞在が15%になったことを考えると、南北に分断された支配領域を統治するためにもパリが極めて便利な位置にあったことがわかる。この点、初代公フィリップ同様に王国政権を掌握しようとした第2代公ジャンの治世も変わりはない<sup>10)</sup>。

このような状況に大きな変化が生じるのは、のちにフランス王シャルル7世（在位1422-1461年）となった王太子シャルルによる第2代公ジャンの殺害（1419年）後である。ブルゴーニュ公家のフランス王家との対立、さらにイングランド王家への接近から、第3代公フィリップは低地地方に長期滞在するようになる。特に同公治世の晩年はブリュッセル滞在が長かったようである。公フィリップが一年のうちで最も重要な二つの祝祭である復活祭およびクリスマスをどこで過ごしたかも明らかにされており、次のような数値がわかる（計96回）。ブリュッセル

表2 四代ブルゴーニュ公のデザインオン滞在 (1363-1477年)

	月												都市		地方	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	復活祭	クリスマス	復活祭	クリスマス
1363							10-11-Fin	1-8	4-17,28-29	29-31	1-3		-	[Boulogne]	-	<b>B</b>
1364	1-20,26-30	12-16-Fin	1,28-30	3-9,14-16							<u>26</u>	2-15,24-29	<b>Auxonne</b>	3,24	<b>Dijon</b>	<b>B</b>
1365					1,14-20,31	1-2,24-29							<b>Dijon</b>	4,13	Troyes	<b>B</b>
1366	1-4,6,8-9			18-28		1-11,21,22,25-26	22-Fin	1-2	9-12,19,21	13-15,26,28-31	1-3		Monticraney	4,5	Paris	Ch <b>P</b>
1367												23-25	Paris	4,18	Paris	<b>P</b>
1368	27-31	1-10,12-13-Fin	1,8-10				2-4,8-10	19-20					Sens	4,9	<b>Dijon</b>	Ch <b>B</b>
1369	7,14												Paris	4,1	Paris	<b>P</b>
1370					16,19-Fin			[1-3]	13+	12+	23+		Paris	4,14	[Boulogne]	<b>P</b>
1371	2				23-29,31	13,6,9,16,19,21,30	1-4,6-12			29-31	1-2,19,21,24-26	14-16,23-31	<b>Rouvres</b>	4,6	<b>Dijon</b>	<b>B</b>
1372	1-10,23-26		7-11	20,22-30	15,12,17,21,29	18							Arras	3,28	Troyes	<i>Ar</i>
1373	14-15		10,31	1-5,7-25	19-27,30-31	1-8							<b>Dijon</b>	4,17	<b>Talant</b>	<b>B</b>
1374										17			<b>Rouvres</b>	4,2	Paris	<b>B</b>
1375								12-19,23-25		8-10			Gand	4,22	St-Omer	<i>Fl</i>
1376					17-19	21				12-26,31	1-2,7,29-30	1	Paris	4,13	Fontenay	<b>P</b>
1377					7,11-12,19,20		28	5,9-10			15,25-26	9,18	[Flandre]	3,29	Paris*	<i>Fl</i>
1378							2						[Normandie]	4,18	Châtillon s/S	<b>B</b>
1379			17										<b>Montbard</b>	4,10	[Champagne]	<b>B</b>
1380				3+	1								Paris	3,25	Paris/Vincennes	<b>P</b>
1381						10,12							Paris*	4,14	[Paris*]	<b>P</b>
1382													[Paris*]	4,6	Tourmay/Lille*	<b>P</b>
1383					18								Paris	3,22	Paris	<b>P</b>
1384										28-31	1-6,25-30	7	Arras	4,10	Paris	<i>Ar</i>
1385													Arras	4,2	Tournay	<i>Ar</i>
1386						15							Paris*	4,22	Paris*	<b>P</b>
1387					20				17				Arras*	4,7	Compiègne/Arns*	<i>Ar</i>
1388													Paris/Orléans*	3,29	<b>Montbard</b>	<b>P</b>
1389	16-23,31	1-8		14-19									<b>Dijon</b>	4,18	Malines	<b>B</b>
1390				1-4			6						<b>Dijon</b>	4,3	Paris	<b>B</b>
1391					28,30					30			Amiens	3,26	Tours*	Pic
1392													Arras*	4,14	Paris*	<i>Ar</i>
1393					25,30					9-10,21			Boulogne*	4,6	Paris*	Boul
1394													Boulogne*	4,19	Paris*	Boul

ヴァロワ家ブルゴーニュ公の公位継承と公妃の宣誓（2）  
 ——ディジョン都市特権確認文書——

	月												都市			地方		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	復活祭	クリスマス	復活祭	クリスマス		
1395														<b>Bellecroix</b> 4.11	Paris	<b>B</b>	<b>P</b>	
1396			18-21	15-21, 24-25			23-26							Paris	4.2	Conflans	<b>P</b>	
1397				13-30	1									Conflans*	4.22	Paris	<b>P</b>	
1398														Bruges	4.7	Conflans	<b>Fl</b>	
1399														Conflans	3.30	Neauf[phile]	<b>P</b>	
1400														Conflans	4.18	Conflans	<b>P</b>	
1401														Conflans	4.3	Paris (Ar.)	<b>P</b>	
1402														Paris (Ar.)*	3.26	Paris (Ar.)	<b>P</b>	
1403														Paris*	4.15	Paris*	<b>P</b>	
1404														Arras*	3.30	Chalon s/ Saône	<b>Ar</b>	
1405	1-2													Gand	4.19	Paris (Palais)	<b>Fl</b>	
1406														Paris	4.11	Paris	<b>P</b>	
1407														Gand	3.27	Gand/Bruges*	<b>Fl</b>	
1408														Paris*	4.15	Paris	<b>P</b>	
1409														Paris (Ar.)*	4.7	Paris (Ar.)	<b>P</b>	
1410														Paris*	3.23	Lille	<b>Fl</b>	
1411														Arras	4.12	Paris (Ar.)	<b>Ar</b>	
1412														Paris (Ar.)	4.3	Paris	<b>P</b>	
1413														Paris	4.23	Gand	<b>P</b>	
1414														Arras	4.8	Argilly	<b>Ar</b>	
1415														<b>Dijon</b>	3.31	Ligny s/ Meuse	<b>B</b>	
1416														Bruges	4.19	Lille	<b>Fl</b>	
1417														Hesdin	4.11	Troyes	<b>Ar</b>	
1418														Troyes	3.27	Pontoise*	<b>Ch</b>	
1419														Provins	4.16	Arras	<b>Ch</b>	
1420														Troyes	4.7	Paris	<b>Ch</b>	
1421														Gand	3.23	Lille	<b>Fl</b>	
1422														<b>Salins</b>	4.12	Lille	<b>Fl</b>	
1423														Arras	4.4	<b>Dijon</b>	<b>Ar</b>	
1424														Lille	4.23	<b>Dijon</b>	<b>Fl</b>	
1425														Hesdin	4.8	Leiden	<b>Ar</b>	
1426														Bruges	3.31	L'Ecluse*	<b>Fl</b>	
1427														Zevenbergen	4.20	Leiden	<b>Bra</b>	

	月											都市		地方		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	復活祭	クリスマス	復活祭	クリスマス
1428													Lille	Bruges	Fl	Fl
1429													Lille	Bruges*	Fl	Fl
1430													Péronne*	Bruxelles	Pic	Bra
1431													Bruxelles*	Lille	Bra	Fl
1432		16-18,20-21,24,26			[1],3-8,10-11								<b>Dijon</b>	Gand	<b>B</b>	Fl
1433													La Haye	<b>Dijon*</b>	Hol	<b>B</b>
1434	1-2,6-7,9-11,13												<b>Dijon</b>	<b>Dijon*</b>	<b>B</b>	<b>B</b>
1435	1-2,4,6,8,9												Paris*	Bruxelles	P	Bra
1436													La Haye*	Bruges*	Hol	Fl
1437													Arras	Arras*	Ar	Ar
1438													Arras*	Bruxelles*	Ar	Bra
1439													La Haye*	St-Omer	Hol	Ar
1440													St-Omer*	Bruges*	Ar	Fl
1441													Le Quesnoy	<b>Dijon</b>	Ar	<b>B</b>
1442	14,8,10,13,15,16,20,24								12,6,20,22,26,28,30			20-31	Chalon s/S	<b>Dijon*</b>	<b>B</b>	<b>B</b>
1443	1-8,11-31												<b>Dijon</b>	Luxembourg*	<b>B</b>	Litx
1444													Bruges	Bruges*	Fl	Fl
1445													Gand*	Gand	Fl	Fl
1446													Lille*	Gand	Fl	Fl
1447													Bruxelles*	Bruxelles	Fl	Bra
1448													Bruxelles*	Amiens	Bra	Pic
1449													Bruxelles*	L'Ecuse	Bra	Fl
1450													Bruxelles	Mons	Bra	Hai
1451													Bruxelles*	Bruxelles	Bra	Bra
1452													Bruxelles*	Lille*	Bra	Fl
1453													Lille*	Lille*	Fl	Fl
1454									17,20,22	[1],17-19,28,30	[1],24,30		Constance	<b>Dijon</b>	Allemagne	<b>B</b>
1455		[1],4											Bruges*	La Haye	Fl	Hol
1456													Lille	Bruxelles*	Fl	Bra
1457													Bruges*	Lille/Bruges	Fl	Fl
1458													Bruges*	Valenciennes	Fl	Hai
1459													Bruxelles*	Bruxelles	Bra	Bra

	月												都市			地方		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	復活祭	クリスマス	復活祭	クリスマス		
1460													Bruxelles* 4.13	Bruxelles	Bra	Bra		
1461													Gand 4.5	Bruxelles	Fl	Bra		
1462													Bruxelles 4.18	Bruxelles	Bra	Bra		
1463													Bruges 4.10	Bruges	Fl	Fl		
1464													Lille 4.1	Bruxelles	Fl	Bra		
1465													Bruxelles 4.14	Bruxelles	Bra	Bra		
1466													Bruxelles 4.6	Lille	Bra	Fl		
1467													Bruges 3.29	Bruxelles	Fl	Bra		
1468													Bruges 4.17	Bruxelles	Fl	Bra		
1469													Hesdin 4.2	Gand	Ar	Fl		
1470													Lille 4.22	Hesdin	Fl	Ar		
1471													Corbie 4.14	St-Omer	Pic	Ar		
1472													Bruges 3.29	Bruges	Fl	Fl		
1473													Lille 4.18	Neuf-Brisach	Fl	Alsace		
1474	23-31	1-11-19											Luxembourg 4.10	siège de Neuss	Lux	Allemagne		
1475													siège de Neuss	siège de Nancy	Allemagne	Lorraine		
1476													devant Lausanne 4.14	siège de Nancy	Suisse	Lorraine		
1477													-	4.6	-	-		

- ※ 典拠とした旅程に関する引用文献の記述に従って、場合によっては宿泊日だけでなく出立の日も含めた。
- ※ 昼食で経由のみの場合も含めた。
- ※ 括弧[]内はデイジョンほかブルゴーニュでの滞在において特定できない場合と、シャンメルと特定された場合に用いた。
- ※ プラス+の使用は、同月のそれ以外の日が特定できない場合。
- ※ アスタリスク\*は、推定の場合に用い、前後の日程からほぼ確実と思われる場合は付さなかった。
- ※ 地方名略記。但し、都市名と同じ場合は省く。斜体は低地地方ほか北部諸地方。

Ar Artois アルトワ  
 B Bourgogne ブルゴーニュ  
 Bra Brabant ブラバント  
 Ch Champagne シャンパーニュ  
 Fl Flandre フランドル  
 Hol Hollande ホラント  
 P Paris パリ周辺  
 Pic Picardie ピカルディ

(23回)、ブルッヘ (16-17回)、リル (8-9回)、ヘント (8回)、ディジョン (7回)、アラス (5回)、デン・ハーフ (4回)、ライデン (2回)、サン＝トメール (2回)、そして治世初期においてパリ (2回) というもので、実際、同公治世の3割方はブリュッセルに滞在していたとみられ、次いでリル、ブルッヘ、ディジョン、ヘントの順で滞在期間が長かった<sup>11)</sup>。都市叛乱が屢々生じたフランドル都市ではなく、より従順なブラバント公領首都ブリュッセルが筆頭にくるとはいえ、全体としてフランドル及びブラバントの北部低地地方諸都市での長期滞在は明白である。これは北部領域ブロックの帝国側 (東方) への領土拡張と関連しており、宮廷に近い総財務収入役会計簿がリルで監査されるようになったこととも関連する<sup>12)</sup>。このように第3代公フィリップ治世以降、ブルゴーニュ公国における力学は南から北へとシフトしていくのである。

その結果、旧都ディジョンは、南部領域ブロックにおける行政中心地であり続けたとはいえ、概してブルゴーニュ公国の精神的、理念的首都へと変貌していったと考えられる。この点について詳細は別の機会に譲るが、要因としては以下の三点が挙げられる。即ち、第一にディジョン・ブルゴーニュ公邸において、第2代公ジャン (1371年生)、第3代公フィリップ (1396年生)、第4代公シャルル (1433年生) の三公が生まれたこと、第二にディジョン・ブルゴーニュ公邸の東側に隣接したブルゴーニュ公の宮廷礼拝堂、つまりサント・シャペル (「聖礼拝堂」、*Sainte-Chapelle*) が金羊毛騎士団の本拠となり、24人の修道士がそこで公国各地から募集された騎士団員のために祈りを捧げ続けたこと、そして第三にディジョン西郊に創建されたヴァロワ家ブルゴーニュ公の菩提教会であるシャンモルのカルトジオ会修道院に、初代公フィリップ (1404年没)、第2代公ジャン (1419年没)、第3代公フィリップ (1467年没) の三公が埋葬されたことである。シャンモルにおいても24人のカルトジオ会修道士たちがヴァロワ家ブルゴーニュ公家のために祈りを捧げ続けたのである<sup>13)</sup>。

以下、3つの史料の内容について簡潔に触れておきたい。

#### 4. 史料の内容

史料1および史料3は、ブルゴーニュ公フィリップの入市に関連する記事をディジョン都市評議会審議録から抜粋したものである。ディジョンの都市評議会審議録は、『秘密の書』(*Papier du secret ; Registre du secret*) と呼ばれるもので、最も古いものは1341年のものとされる<sup>14)</sup>。

史料1はディジョン入市が果たされた1422年2月19日 (木) の3週間程前にあたる1月30日 (金) に、市長リシャル・ボンヌ以下、少なくとも都市参事会員7名が出席して、次の日曜日 (恐らく2月1日) 朝に都市名望家 (「当市の最も貴顕で身分ある者らはすべて」) に対しディジョンのドミニコ会教会に集まるよう指示することを取り決めたものである。2月19日の新公入市の際には、立派な身なりで市長以下に随伴するよう命じ伝えるためである。

因みに、この1月30日の時点でブルゴーニュ公フィリップ一行はまだパリ (ないしはその近郊) に滞在しており、パリを立ったのは2月6日 (金) のようである。その後、7日 (土) にはパリ南東ムラン (Melun)、8日 (日) には先代公ジャンが殺害されたモントロ (Montreuil)、11日 (水) から13日 (金) にかけてはシャンパーニュ都市トロワ (Troyes) に宿泊した。ブルゴーニュ公領北部のバイ管区主邑シャティヨン＝シュル＝セヌ (Châtillon-sur-Seine) に入ったのが15日 (日) で、ディジョン入市前日18日 (水) にはディジョン北西30 km弱程のサン＝セヌ＝ラ

ベイ(Saint-Seine-l'Abbaye)からディジョン郊外すぐのタラン(Talant)まで移動している。市長および市参事会員らが特権確認の請願にどこまで出向いたかは現状ではわからないが、恐らくサン・セヌ修道院辺りまでは出向いたのではなかろうか<sup>15)</sup>。

次に、史料2は都市文書集から抜粋したディジョン都市特権確認文書である。残念ながら証書原本は参照できなかったが、都市文書(証書)集に同時代に転写された同文書はガルニエ版のものと全く同一と言ってよく、一字一句丁寧に筆写されている。内容としては既に前稿で取り上げたディジョン入市式次第にみられた記述の方がむしろ詳しく、慣例通り、都市特権確認を証書化したものである。歴代の公が発給した特権確認文書で大きく異なるのは立会人(証人)であり、これについては次の史料3とともにみてみよう。

史料3は、既に述べた通り、都市側の史料である審議録に、特権確認の当日に記載された記事である。内容は史料2の証書を都市側の一種のメモとして記録したものである。従って史料2の内容と同様で、むしろそれを要約したものと言える。

ここでは、立会人についてのみ言及しておきたい。詳細は史料試訳に付した後掲註に譲るが、史料2では、まず新公フィリップの叔父アントワヌの次子フィリップ・ド・ブルゴーニュ(ないしはフィリップ・ド・サン=ポル。当時亡命を余儀なくされた兄ブラバント公ジャン4世に替わる摂政)が挙げられる。続いてラングル司教シャルル・ド・ボワティエ、尚書トゥルネオ司教ジャン・ド・トワズィ、サン・ベニーニュ修道院長、両ブルゴーニュで公に次ぐ高級貴族家門シャロン・アルレ家のオランジュ公ルイ・ド・シャロン、その弟のヴィトォ領主ジャン・ド・シャロン、サン=ジョルジュおよびサント=クロワの領主ギヨーム・ド・ヴィエンヌ、ティル領主ギヨーム・ド・ティル、ジョンヴェル領主ジャン・ド・ラ・トレモイユ、ブルゴーニュ・セネシャルのフヴァン領主ジャン・ド・ヴェルジィ、ルベ領主ジャン、ブルゴーニュ元帥ジャン・ド・コトブリュヌ、ディジョン・バイイのリシャール・ド・シャンセイ、評議官のニコラ・ロランおよびギィ・ジュルニエ、その他である。

ギヨーム・ド・ヴィエンヌ(1)、ジャン・ド・ラ・トレモイユ(11)、ジャン・ド・ヴェルジィ(30)、ルベ領主ジャン(3)は、のちに金羊毛騎士団員に創設時ないしは早い段階で選出された有力騎士たちである(括弧内はデ・スメト編著による金羊毛騎士団員のいわば公式団員ナンバー)。在地有力高級貴族シャロン家の2人は別として、その他尚書のトゥルネオ司教ジャン・ド・トワズィやこの1422年12月に後任の尚書となるニコラ・ロランなど錚々たる顔ぶれである。恐らく大勢の人々が参加したであろうから、それを一々挙げることもできなかったと思われるが、主要人物の名は挙がっているはずである。ただ全体としては、北部諸地方出身者よりも地元ブルゴーニュ諸地方の有力者が立会人となっているように思われる。次の史料3を史料2と比べると、これら証人の順序が若干異なることと、証人の中にサン・セヌ修道院長とディジョンのサン・テチエンヌ修道院長という地元の高位聖職者が挙がっていることがわかる<sup>16)</sup>。

参考までに、最後に歴代公の立会人のみ表3「ヴァロワ家歴代公によるディジョン都市特権確認の際の立会人」として挙げておこう。

表3 ヴァロワ家歴代公によるディジョン都市特権確認の際の立会人

※典拠は表1と同じ。複数回出てくる役職、地位、人物は太字・下線。

※※略号 B・ブルゴーニュ、D・ディジョン

ブルゴーニュ公	ディジョン都市 特権確認 年月日	立会人
フィリップ・ル・アルディ Philippe le Hardi	1364.11.26	アンジュー公ルイ（B公フィリップの次兄）； <b>オタン司教</b> Geoffroy David Pauteix； <b>サン・ベニーニウ修道院長</b> Jean de Taux；サン・テチエンヌ修道院長Jean de Marigny；Somberton領主Jean de Montagu；Couches領主Hugues de Montagu；B公の評議官兼書記官Jean Blanchet；Simon de Chailly、他。
ジャン・サン・プール Jean sans Peur	1404.6.17	ヌヴェール伯フィリップ・ド・ブルゴーニュ（B公ジャンの末弟）；リッシュモン伯アルチュール・ド・ブルターニュ（先代B公フィリップの被後見人）； <b>オタン司教</b> Milon de Grancey； <b>トゥルネ司教</b> ルイ・ド・ラ・トレモイユ；ヌヴェール司教Robert de Dangeuil；シトー修道院長Jacques de Flogny； <b>サン・ベニーニウ修道院長</b> ；アルレイ領主兼 <b>オランジュ公</b> ジャン・ド・シャロン；サン＝ジョルジュおよびサント＝クロワ領主 <b>ギヨーム・ド・ヴィエンヌ</b> ；Pagny領主ジャン・ド・ヴィエンヌ； <b>フヴァン領主</b> 元帥ジャン・ド・ヴェルジイ；Montagu領主ジャン・ド・ヌシャテル；ヌシャテル領主チボ；Orbe領主Humbert de Villers-Sesel；Ray領主ベルナル、他。
フィリップ・ル・ボン Philippe le Bon	1422.2.19	リニイおよびサン・ポール伯フィリップ・ド・ブルゴーニュ；ラングル司教シャルル・ド・ボワティエ；尚書 <b>トゥルネ司教</b> ジャン・ド・トワズイ； <b>サン・ベニーニウ修道院長</b> ； <b>オランジュ公</b> ルイ・ド・シャロン；Vitteaux領主ジャン・ド・シャロン；サン＝ジョルジュおよびサント＝クロワ領主 <b>ギヨーム・ド・ヴィエンヌ</b> ；Thil領主ギヨーム；Jonvelle領主ジャン・ド・ラ・トレモイユ； <b>フヴァン領主</b> ブルゴーニュ家令（セネシャル）ジャン・ド・ヴェルジイ；Roubaix領主ジャン；ブルゴーニュ元帥ジャン・ド・コトブリユヌ；ディジョン・バイイのリシャール・ド・シャンセイ、ニコラ・ロラン、ギイ・ジュルニエ、他。
シャルル・ル・テメレール Charles le Téméraire	1474.1[.23]	記載なし。

## 5. 史料原文と試訳

### 史料1 デイジョン都市評議会審議録(a) (1422年1月30日金曜日)<sup>17)</sup>

[1422年] 1月30日金曜日、都市の会議室にて、市長殿 [リシャール・ボンヌ]<sup>18)</sup>、[市参事会員] ギユモ・プルトゥレ、エチエンヌ・マリオ、ジャン・ペロ、ジャン・マルタン、モナン・ド・ブルトゥネール、ジャン・ブルレそしてジャン・ジェルミネが出席し、以下のことが審議された。即ち、次の日曜日朝に、当市の最も貴顕で身分ある者らはすべて、次のことを命じるのでジャコバン（ドミニコ会）教会に集うよう伝えられた。来る（2月19日）[マ] 木曜日に当市に [新たな都市] 領主として来られることを伝えられた新公の我がフィリップ公殿の新たな [ディジョン] 来訪に際し、この者ら [都市の身分ある者すべて] は、騎乗してできる限り立派な身なりで、上述 [新公殿の] 来訪時に我が市長殿および市参事会員殿らに付き随うように、と。（Le vendredi XXX<sup>e</sup> de janvier en la chambre [/] <sup>19)</sup> de la ville, ou estoient [//] monseigneur le maire [= Richart Bonne], G[uillemot] Pourteret, E[stienne] Marriot, J[ehan] Perrot, J[ehan] Martin, M[onin] de Bretenere, J[ehan] Brelet et Jehan Germinet. [//] Deliberé est que dimanche matin prouchain les [/] gens d'estat de ceste ville tous les plus notables [/] soient mandez es Jacobins pour leur ordonner que [/] a la venue nouvelle de monseigneur le duc Phelippe [/] nouveaul duc qui a mandé estre en [/] ceste ville comme seigneur, (le) jeudi prouchain (XIX<sup>e</sup> jour de fevrier)[sic], ilz [/] soient montez et habillez le plus honnorablement qu'ilz [/] pourront pour acompaignier aladicte venue, monseigneur [/] le maire et messeigneurs les eschevins.）

### 史料2 ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンのディジョン都市特権確認文書（ディジョン、1422年2月19日木曜日）<sup>20)</sup>

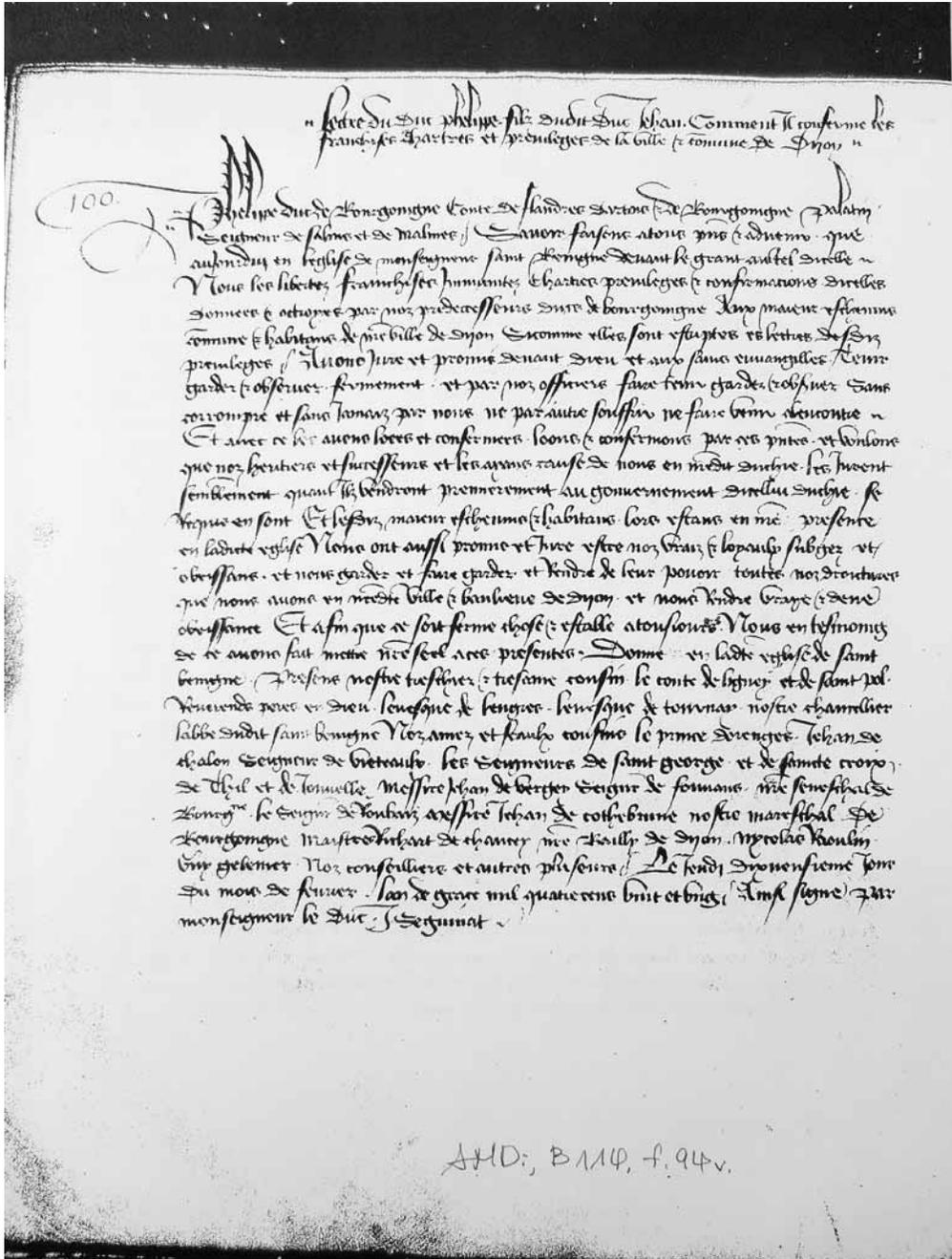
ブルゴーニュ公、フランドル、アルトワ、ブルゴーニュ（宮中）の伯にして、サランおよびメヘレンの領主たるフィリップ [・ル・ボン] はすべての者に現在および未来において以下のことを知らしめる。本日、我が主聖ベニーニュ様の教会、大祭壇の前において、余は余の先祖代々のブルゴーニュ公殿が旧来賦与してきた諸自由 (*libertez, frainchises*)、諸免除、諸文書、諸特権およびその確認文書を、余の都市ディジョンの市長、市参事会員ら、都市共同体（コムン）および都市住民に対し、それらが上述の特権文書に記されている通り、これに反して余によっても他の者によっても決して損害を与えることなく、しっかりと護持・遵守 (*tenir, garder et observer*) し、余の役人らによって護持・遵守させることを、主の前で聖なる福音書に誓約した。同時にこれらに同意し確認した。そして当該文書によって同意し確認し、以下のことを望む。即ち、余の相続人および継承者そして余の上述の公領における余の承継人は、その者らが同様に同公領の統治に初めて赴き、要請があれば同様に誓うということである。そして上述の市長、市参事会員らおよび都市住民らはまた、上述教会における余の立ち会いのもとで余に対し、余の真の忠実なる臣下として服従し、余に対しこれを遵守し、遵守させること、ディジョンの上述の都市およびバンリュウ（郊外区）において余が有する公正さをその権力となし、そして余に対し真の然るべき服従をなすことを誓った。このことが常に揺るぎなく確かであるように、余はその証拠として当該文書に余の印章を付した。上述の聖ベニーニュ教会において、

余の親愛なる従兄弟リニイ (Ligny-en-Barrois) およびサン=ポール (Saint-Pol) の伯 [フィリップ・ド・ブルゴーニュ]<sup>21)</sup>、尊師ラングル (Langres) 司教殿 [シャルル・ド・ボワティエ]<sup>22)</sup>、余の尚書トゥルネ司教殿 [ジャン・ド・トワズイ]<sup>23)</sup> および上述サン・ベニーニュ修道院長殿<sup>24)</sup>、余の親愛にして忠実なる従兄弟オランジュ公 (prince d'Orange)<sup>25)</sup> [ルイ・ド・シャロン]、ヴィトオ (Vitteaux) 領主ジャン・ド・シャロン<sup>26)</sup>、サン=ジョルジュ (Saint-Georges) およびサント=クロワ (Sainte-Croix) 領主 [ギヨーム・ド・ヴィエンヌ]<sup>27)</sup>、ティル (Thil) 領主 [ギヨーム・ド・ティル]<sup>28)</sup>、ジョンヴェル (Jonvelle) 領主 [ジャン・ド・ラ・トレモイユ]<sup>29)</sup>、余のブルゴーニュ・セネシャルでフヴァン (Fouvent) 領主のジャン・ド・ヴェルジイ<sup>30)</sup>、ルベ (Roubaix) 領主 [ジャン]<sup>31)</sup>、余のブルゴーニュ元帥ジャン・ド・コトプリユヌ<sup>32)</sup>、余のデイジョン・バイイたるリシャール・ド・シャンセイ<sup>33)</sup>、余の評議官ニコラ・ロラン<sup>34)</sup>、ギイ・ジュルニエ<sup>35)</sup> その他の立ち会いのもと、[新暦] 1422年 2月19日木曜日に与えられる。以下、署名、我が公殿により、J.スギナ。(Phelippe duc de Bourgoingne, conte de Flandres, d'Artois et de Bourgoingne, palatin, [1] seigneur de Salins et de Malines. Savoir faisons a tous presens et advenir que [2] aujourdui en l'eglise de monseigneur Saint Benigne devant le grant aultel d'icelle, [3] nous, les libertez, frainchises, immunitiez, chartres, privileges et confirmacions d'icelles [4] donnees et octroyes par noz predecesseurs ducs de Bourgoingne aux maieur, eschevins, [5] commune et habitans de nostre ville de Dijon, si comme elles sont escriptes es lectres desdiz [6] privileges, avons juré et promis devant Dieu et aux Sains Evuangilles, tenir, [7] garder et observer fermement, et par noz officiers faire tenir, garder et observer sans [8] corrompre et sans jamaiz par nous ne par autre souffrir, ne faire venir a l'encontre, [9] et avec ce, les avons loees et confermees, loons et confermons par ces presentes, et voulons [10] que noz heritiers et successeurs, et les ayans cause de nous en nostredit duchié, les jurent [11] semblablement quant ilz vendront premierement au gouvernement d'icellui duchié, se [12] requis en sont, et lesdiz maieur, eschevins et habitans lors estans en nostre presence [13] en ladicte eglise, nous ont aussi promis et juree estre noz vraie et loyaulx subgez et [14] obeissans, et nous garder et faire garder, et rendre de leur povoir toutes noz droictures [15] que nous avons en nostredicte ville et banlieue de Dijon, et nous rendre vraye et deue [16] obeissance. Et afin que ce soit ferme chose et estable a tousjours, nous, en tesmoing [17] de ce, avons fait mettre nostre seel a ces presentes. Donné en ladicte eglise de Saint [18] Benigne, presens nostre treschier et tresamé cousin le conte de Ligney et de Saint Pol, [19] reverends peres en Dieu l'evesque de Lengres, l'evesque de Tournay, nostre chancelier, [20] l'abbé dudit Saint Benigne, noz amez et feaulx cousins le prince d'Orenge, Jehan de [21] Chalon, seigneur de Vieteaux, les seigneurs de Saint George et de Sainte Croix, [22] de Thil et de Jonvelle, messire Jehan de Vergy seigneur de Fouvans, nostre seneschal de [23] Bourgoingne, le seigneur de Roubaiz, messire Jehan de Cothebrune, nostre mareschal de [24] Bourgoingne, maistre Richart de Chancey nostre bailly de Dijon, Nycolas Raoulin, [25] Guy Gelenier noz conseilliers et autres pluseurs, le jeudi dixneuvieme jour [26] du mois de fevrier, l'an de grace mil quatrecentz vint et ung. Ainsi signé par [27] monseigneur le duc J. Seguinat.)

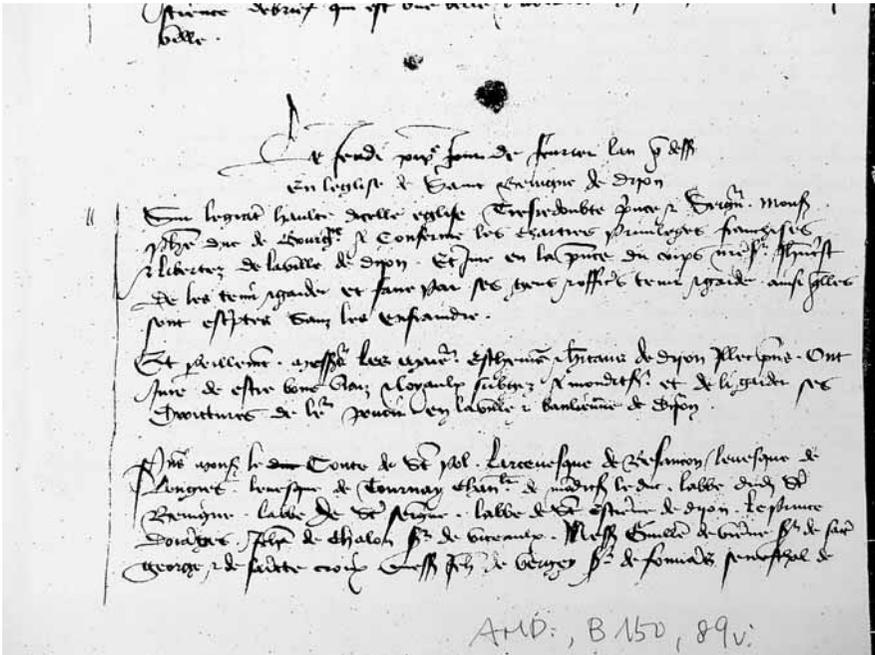
史料3 ディジョン都市評議会審議録(b) (1422年2月19日木曜日)<sup>36)</sup>

同 [1422 (旧暦1421)] 年2月19日、ディジョンのサン・ベニーニュ教会にて。同教会大祭壇において、我がいとも畏れ多きブルゴーニュ公フィリップ殿は、都市ディジョンの諸文書・諸特権・諸自由を確認し、我らが主イエス・キリストの聖体を前にしてそれらを護持・遵守し、かつその役人らによって護持・遵守させるよう誓い、それらに背反することなきよう [文書に] 認 (したた) められた。同様に、ディジョンの我が市長殿、市参事会員殿らおよび住民らは、この場に立ち会い、我が殿の良き真の忠実なる臣下であり、ディジョンの都市およびバンリュウにおける彼らの権力から我が公殿の公正さを遵守することを誓った。サン=ポール(公) 伯殿 [ママ]<sup>37)</sup>、プザンソン大司教 [ティエボ・ド・ルジュモン]<sup>38)</sup>、ラングル司教<sup>39)</sup>、我が殿の尚書トゥルネ司教<sup>40)</sup>、上述サン・ベニーニュ修道院長<sup>41)</sup>、サン・セヌ (Saint Seine) 修道院長 [ジャン・ド・ブレズイ]<sup>42)</sup>、ディジョン・サン・テチエンヌ修道院長、オランジュ公<sup>43)</sup>、ヴィトォ領主ジャン・ド・シャロン<sup>44)</sup>、サン・ジョルジュおよびサント・クロワの領主ギヨーム・ド・ヴィエンヌ<sup>45)</sup>、ブルゴーニュ・セネシャルでフヴァン領主のジャン・ド・ヴェルジイ<sup>46)</sup>、ブルゴーニュ元帥ジャン・ド・コトブリユヌ<sup>47)</sup>、ティル領主<sup>48)</sup>、ジョンヴェル領主ジャン・ド・ラ・トレモイユ<sup>49)</sup>、ルベ領主<sup>50)</sup>、ディジョン・バイイ<sup>51)</sup>、余の評議官ニコラ・ロラン<sup>52)</sup>、ギイ・ジュールニエ<sup>53)</sup>、およびその他複数名が立ち会った。(Le jeudi XIX<sup>e</sup> jour de fevrier l'an que dessus [/] en l'eglise de Saint Benigne de Dijon. [//] Sur le grant haulté d'icelle eglise, tresredoubté prince et seigneur monseigneur [/] Phelippe duc de Bourgoingne a confirmé les chartres, privileges, franchises [/] et libertez de la ville de Dijon, et juré en la presence du corps nostreseigneur Jhesus Christ [/] de les tenir et garder et faire par ses gens et officiers tenir et garder, ainsi qu'elles [/] sont escriptes sanz les enfreindre. [//] Et pareillement messeigneurs les maieur, eschevins et habitans de Dijon illec presens ont [/] juré de estre bons, vraiz et loyaux subgez a monditseigneur, et de li garder ses [/] droictures de leur pouvoir en la ville et banlieue[sic] de Dijon. [//] Presens monseigneur le duc conte [sic] de Saint Pol, l'arcevesque de Besancon, l'evesque de [/] Lengres, l'evesque de Tournay chancelier de monditseigneur le duc, l'abbé dudit Saint [/] Benigne, l'abbé de Saint Seigne, l'abbé de Saint Estienne de Dijon, le prince [/] d'Orange, Jehan de Chalon seigneur de Viteaulx, messire Guillaume de Vienne seigneur de Saint [/] George et de Saicte Croix, messire Jehan de Verghey seigneur de Fouvans, seneschal de [/] Bourgoingne, messire Jehan de Cotebrune mareschal de Bourgoingne, le seigneur de Thil, messire [/] Jehan de la Tremoille seigneur de Jonvelle, le seigneur de Robois, le bailli de Dijon, [/] maistre Nicolas Rolin, maistre Guy Gelenier et plusieurs autres.)

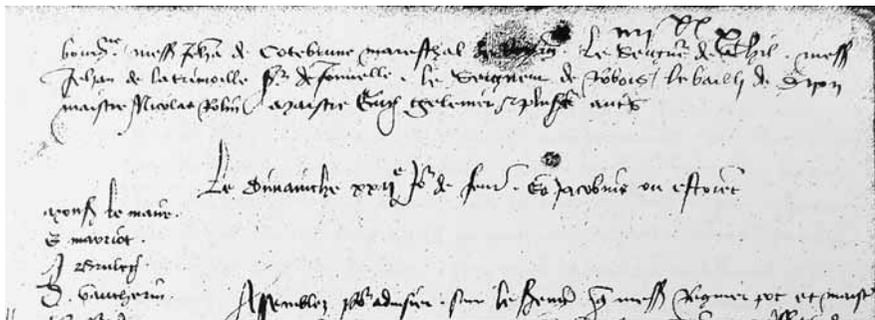




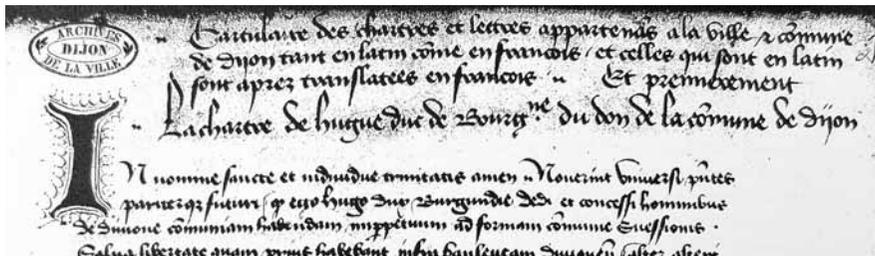
史料2 ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンのデイジョン都市特権確認文書（写し）  
（デイジョン、1422年2月19日木曜日）（AMDi, B 114, f. 94 v.）



史料3 デイジョン都市評議会審議録(b) (1422年2月19日木曜日)  
(AMDi, B 150, f. 89 v.)



史料3 デイジョン都市評議会審議録(b) (続き) (1422年2月19日木曜日)  
(AMDi, B 150, f. 90 r.)



デイジョン都市文書集 (カルチュレール) 冒頭部分 (マイクロフィルム版)  
(AMDi, B 114, f. 1 r.)

註

- 1) GUENÉE, B., *L'Occident aux XIVe et XVe siècles. Les Etats*, Paris, PUF, 1971 (6e éd., 1998), p. 85-92 ; GUENÉE, B. / LEHOUC, Fr., *Les entrées royales françaises de 1328 à 1515*, Paris, CNRS, 1968 ; SCHNERB, B., *L'Etat bourguignon, 1363-1477*, Paris, Perrin, 1999, p. 328-330.
- 2) 中堀博司「ヴァロワ家ブルゴーニュ公の公位継承と公妃の宣誓（1）——ディジョン入市式次第——」『宮崎大学教育文化学部紀要（社会科学）』26・27、2012年、38頁。
- 3) GARNIER, Jh., *Chartes de communes et d'affranchissements en Bourgogne*, Dijon, Rabutot / Darantière, 1867-1877, 3 vol. ; GARNIER, Jh. / CHAMPEAUX, E., *Chartes de communes et d'affranchissements en Bourgogne. Introduction*, Dijon, Darantière / Jobard, 1918 (repris en partie dans CHAMPEAUX, E., *Les institutions communales en Bourgogne sous l'Ancien Régime*, avec un avant-propos de P. GRAS, Roanne, Horvath, 1976).
- 4) AMDi, B 114 (1183-1555) : « *Cartulaire des chartres et lettres appartenans a la ville et commune de Dijon, tant en latin comme en françois, et celles qui sont en latin sont apres translatees en françois.* » ; 156 feuillets, parchemin (microfilm).
- 5) PÉRARD, E., *Recueil de plusieurs pièces curieuses servant à l'histoire de Bourgogne*, Paris, 1664. 筆者未見。
- 6) PLANCHER, Dom U. / MERLE, Dom Z., *Histoire générale et particulière de Bourgogne*, Dijon, 1739-1781 (2e éd., Paris, 1974), 4 vol, t. III, p. ccxxxix, pr. no. CCXXXVII. « *Cartul. de la même ville, fol. 94* »と註記。
- 7) AMDi, B 150 (1418-1423) : Papier du secret (registre des délibérations) ; 127 feuillets, papier (1 Mi 241).
- 8) 後掲註12参照。
- 9) PETIT, E., *Itinéraires de Philippe le Hardi et de Jean sans Peur, ducs de Bourgogne (1363-1419), d'après les comptes de dépenses de leur hôtel*, Paris, 1888 ; VANDER LINDEN, H., *Itinéraires de Philippe le Bon, duc de Bourgogne (1419-1467) et de Charles, comte de Charolais (1433-1467)*, Bruxelles, Palais des Académies, 1940 ; VANDER LINDEN, H., *Itinéraires de Charles, duc de Bourgogne, Marguerite d'York et Marie de Bourgogne (1467-1477)*, Bruxelles, M. Lamertin, 1936.
- 10) PARAVICINI, W., Die Residenzen der Herzöge von Burgund, 1363-1477, in PATZE, H. / PARVICINI, W. (hg.), *Fürstliche Residenzen im spätmittelalterlichen Europa*, Sigmaringen, 1991, S. 207-263, S. 224 ; PARAVICINI, W. / SCHNERB, B. (dir.), *Paris, capitale des ducs de Bourgogne*, Ostfildern, Thorbecke, 2007. 公国前半期においては、ディジョンおよびパリはもとより、パリとフランドルの間に位置するアラス（アルトワ）、さらにパリとディジョンの間に位置するトロワ（シャンパーニュ）が重要な位置を占めた。中堀博司「中世後期両ブルゴーニュと移動する宮廷——統「領邦の記憶」——」、『宮崎大学教育文化学部紀要（社会科学）』21、2009年、49-75頁。
- 11) PARAVICINI, W., Die Residenzen, S. 236-237 ; SCHNERB, B., *L'Etat bourguignon, 1363-1477*, Paris, Perrin, 1999, p. 276-277 ; LECUPPRE-DESJARDIN, E., *La ville des cérémonies. Essai sur la communication politique dans les anciens Pays-Bas bourguignons*, Turnhout, Brepols, 2004, p. 26-40, 384.
- 12) MOLLAT, M., *Comptes généraux de l'Etat bourguignon entre 1416 et 1420*, Paris, Klincksieck, 1965-1976, 6 vol. ; POCQUET DU HAUT-JUSSÉ, B.-A., Les chefs des finances duciales de Bourgogne sous Philippe le Hardi et Jean sans Peur (1363-1419), *Mémoires de la Société pour l'histoire du droit et des institutions des anciens pays bourguignons, comtois et romands*, 4e fasc., 1937, p. 5-77. 中堀博司「中世後期フランスにおける領邦会計院の成立——ディジョン会計院を中心に——」『西洋史学論集』46、2008年、59-80頁。1386年に南部のディジョンと北部のリルにそれぞれ評議院並びに会計院が再編され、さらに南北各々に対応する形で総収入役職が設置された。そしてこれら総収入役職の上位にはブルゴーニュ公宮廷に極めて近い総財務収入役職が置かれることになる。この公国全土の財務にかかわる公国最上位の会計簿の監査が当初ディジョンでなされていた。しかし、第2代ゴジャン治世の内戦激化やルート上の安全性の問題などから、1410年代以降、時に北部のリルで監査が実施されるようになる。原則的に

1430年頃まではディジョンにその権限があったとされるこのトップの監査も、事実上、第3代公フィリップ治世初頭の1419年からはリルで行われ、リルの公国全体におけるその重要度は増すことになる。実際、総財務収入役会計簿の伝来状況をみれば、1423年10月2日までの分は複本がディジョンに残されてはいるものの、1423年10月3日以降分はすべてリルに所蔵され（時にブリュッセルにも複本有り）、ほぼ欠号なく伝来する。このようにリルの優位は明らかであるが、諸々の会計院が領邦役人の就任時宣誓や会計簿の提出などから文書行政や情報ネットワークの中核であり続けたことも確かである。この会計院を軸として制度的まとまりが形成されたと考えれば、公国は南北二つのまとまりから、傍系への相続・移譲を含めつつ、五つのまとまり（その核は、ディジョン、リル、ブリュッセル、ヌヴェール、デン・ハーフ）へと移行したとみることができる。但し、北部では一時的とはいえ1473年にメヘレンに一元化された。

- 13) 中堀博司「ブルゴーニュ公国における宮廷と首都——都市ディジョンの位相——」『西洋史学論集』48、2010年、162-164頁。
- 14) GOUVENAIN, L. de, *Inventaire-Sommaire des Archives communales antérieures à 1790. Ville de Dijon*, t. 1, Paris, Dupont, 1867 (Série A 1-13, Actes politiques et administration générale ; Série B 1-480, Privilèges, franchises et administration de la commune). 最古の審議録は、AMDi, B 128 (1341-1343) : Papier du secret (registre des délibérations) ; 129 feuillets, papier. なお、その他のフランス諸都市における同系統の史料については、花田洋一郎「中世後期フランスにおける都市議事録研究の現状と課題——最近の研究から——」『西南学院大学経済学論集』46-3・4、2012年、29-51頁、49頁に詳しい。
- 15) VANDER LINDEN, *Itinéraires de Philippe*, p. 22.
- 16) なお、前稿において入市儀礼の中でのディジョン有力3教会（サン・ベニーニュ、サン・テチエンヌ、サント・シャベル）の棲み分けの可能性に触れたが、このサン・ベニーニュでの都市特権確認を中心とする儀式にサン・テチエンヌ修道院長が参加していることになる。サン・テチエンヌ修道院長もやはり都市の構成員として君主と都市の契約に参加する必要はあったと考えられよう。
- 17) AMDi, B 150, f. 89 v.
- 18) AMDi, B 150, f. 79 r. 「これは、1421年6月24日の洗礼者聖ヨハネの祝日火曜日から1年間の、ディジョン都市およびコムニス（共同体）の慎み深い（口の堅い）方々、市長殿および市参事会員殿らの「秘密の記録簿」 [=ディジョン都市評議会審議録] である。この日、高貴で賢明なお方である平騎士リシャール・ボンヌが、4人の賢人衆（プリユドム）ら、以下に記名する市参事会員ら、このために慣例に従って歓声を上げながらサン・ベニーニュ修道院回廊中庭に集まった同市の公衆によって上述の一年の市長として指名された。同氏は、同市の先代市長が慣例とする形式に則ってディジョンの聖母教会でその任を負い、宣誓する。」 (*C'est le registre du secret de discrettes personnes messeigneurs les maieur et eschevins [ ] dela ville et commune de Dijon, de l'an commencent le mardi jour de feste de la nativité [ ] Saint Jehan Baptiste XXIII<sup>e</sup> jour du mois de juing mil CCCXXI [= 1421.6.24] et fenissent l'an [ ] revolu, ouquel jour noble homme et saige maistre Richart Bonne, escuier, fut par les [ ] quatre proudommes, les eschevins cy apres nommez et le commun deladictte ville pour ce [ ] assemblez ou grant cemetiere de Saint Benigne au cor et a cri, si comme il est [ ] de coustume, institué et cree maire pour ledit an, lequel en prent la charge et fit le [ ] serement en l'eglise de Nostre Dame de Dijon en la forme et maniere que ses predecesseurs [ ] maires deladictte ville l'ont fait et accoustumé faire en tel cas.*)
- 19) [ ]は史料原文における改行を示す。
- 20) AMDi, B 114, f. 94 v. (microfilm). 「上述の公ジャンの息子公フィリップの文書。同公はどのようにしてディジョン都市・コムニンの諸自由・諸文書・諸特権を確認したか」 (*Lecture du duc Phelippe filz dudit duc Jehan. Comment il conferme les [ ] franchises, chartres et privileges de la ville et commune de Dijon.*)
- 21) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 1. フィリップ・ド・ブルゴーニュ (Philippe de Bourgogne) ないしはフィリップ・ド・サン=ポール (Philippe de Saint-Pol)。ブラバント公アントワースとジャンヌ・ド・

- リュクサンブールの次子（1404-1430年）。1427年に兄ジャンの跡を襲い、ブラバント公となるが、1430年に夭逝。詳しくは、エーリック・アールツ『中世ヨーロッパの医療と貨幣危機——ある君主の検屍報告と貨幣不足問題の分析』藤井美男監訳、九州大学出版会、2010年、第I章「フィリップ・ド・サン・ポールはなぜ死んだか——15世紀前半ブラバント公宮廷の医療——」。
- 22) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 2. シャルル・ド・ポワティエ (Charles de Poitiers)。1389～1413年にシャロン (Châlons en Champagne) 司教位、次いで1413～1433年にラングル司教位に就いた。
- 23) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 3. ジャン・ド・トワズイ (Jean de Thoisy)。1396年以降、初代公フィリップから三代に亘って公の評議官 (conseiller)、1409年にオセール司教、1410年から1433年までトゥルネ司教。1419年12月7日に、第3代公の尚書 (chancelier) となるが、1422年11月30日に辞任し、この地位をニコラ・ロランに譲るが、その後も公フィリップの主要な評議官であり続けた。1433年没。COCKSHAW, P., *Le personnel de la chancellerie de Bourgogne-Flandre sous les ducs de Bourgogne de la maison de Valois (1384-1477)*, Kortrijk-Heule, 1982, p. 41-44.
- 24) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 4. エチエンヌ・ド・ラ・ファイエ (Etienne de la Feuillée)、1421年選出、1434年没。
- 25) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 5. ルイ・ド・シャロン (Louis de Chalon)、1463年没。
- 26) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 6. ジャン・ド・シャロン (Jean de Chalon)、ヴィトオ、リル=スウ=モンレアル (l'Isle-sous-Montréal)、シュヴァンヌ (Chevannes)、ロルム (l'Orme) の領主、オランジュ公ルイ・ド・シャロンの弟、1461年以降に没。
- 27) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 7 (p. 92, n. 1.). ギヨーム・ド・ヴィエンヌ (Guillaume de Vienne)。国王や、初代公フィリップ、第2代公ジャンに仕え、1420年に第3代公フィリップの評議官かつ侍従となった。金羊毛騎士団員の第1号 (No. 1) で、1430年1月10日にブルッヘで選出され、1434年に没。DE SMEDT, R. (dir.), *Les chevaliers de l'Ordre de la Toison d'Or au XV<sup>e</sup> siècle. Notices bibliographiques*, 2e éd., Frankfurt am Main etc., 2000, p. 3-4.
- 28) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 8. ギヨーム・ド・ティル (Guillaume de Thil)。ティル、シャトーヴィラン (Châteauvilain)、グランセイ (Grancey)、ピエール・ポン (Pierre-Pont) の領主。騎士で国王侍従。1419年にブルボン公に替わってフランス執事 (chambrier de France)、1431年没。
- 29) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 9. ジャン・ド・ラ・トレモイユ (Jean de la Trémoille)。第2代公ジャンおよび第3代公フィリップの筆頭侍従 (premier chambellan)、宮内次官の筆頭 (premier maître d'hôtel / grand maître d'hôtel) を務め、公の評議官。1419年に公ジャンが殺害された時に、ギヨーム・ド・ヴィエンヌとともにモントロにいた。1430年に前者と同時に金羊毛騎士団員に選出された (第11号) 1449年以前に没。DE SMEDT, *Les chevaliers de l'Ordre*, p. 24-25.
- 30) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 10. ジャン (4世)・ド・ヴェルジイ (Jean IV de Vergy)。フヴァン、サン=ディズィエ (Saint-Dizier)、ヴィニヨリイ (Vignory)、ラ・フォシュ (La Fauche)、ポール=シュール=ソヌの領主。ブルゴーニュ・セネシャルは世襲。1433年11月29日のディジョンでの金羊毛騎士団第3回総会で団員に選出された (第30号)。1460年没。DE SMEDT, *Les chevaliers de l'Ordre*, p. 70-71.
- 31) DE SMEDT, *Les chevaliers de l'Ordre*, p. 6-8. ルベおよびヘルゼーレ (Herzele) 領主ジャン。1369頃-1449年 (没)。初代公フィリップ治世下において、既に戦場で活躍。第2代ジャンのもとで評議官と侍従を兼ね、公の信任厚く外交使節にも重用される。1419年から第3代公フィリップの筆頭侍従となり、ポルトガルへの公の婚約の使節となる。騎士団創設時に選出された第3号の団員。
- 32) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 95, n. 11. コトブリュヌ (Cottebrune / Cotebrune) およびシャラン (Charrin) の領主ジャン、1418-1423年、ブルゴーニュ元帥 (マレシャル)。第2代公ジャンの評議官か

- つ侍従で、1418年9月5日に叙任され、1422年末ないしは1423年初めに亡くなるまで仕える。SCHNERB, B., « *L'Honneur de la Maréchaussée* », *maréchalat et maréchaux en Bourgogne des origines à la fin du XV<sup>e</sup> siècle*, Turnhout, Brepols, 2000 (*Burgundica*, III), p. 68-71.
- 33) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 96, n. 1. リシャール・ド・シャンセイ (Richard de Chancey)、法学士 (licencié ès lois)、公ジャンおよび公フィリップの評議会議長 (chef du Conseil)。
- 34) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 96, n. 2. ニコラ・ロラン (Nicolas Rolin)、公ジャンおよびフィリップの評議官で、1422年12月3日 (ないしは7日) から1462年1月18日に亡くなるまでブルゴーニュ尚書 (chancelier de Bourgogne)。COCKSHAW, *Le personnel de la chancellerie*, p. 44-50.
- 35) GARNIER, *Chartes de communes*, p. 96, n. 3. ギイ・ジュルニエ (Guy Gelinier)、法学士、公ジャンおよびフィリップの評議官、さらに評議会議長。
- 36) AMDi, B 150, f. 89 v.
- 37) 上掲註21参照。
- 38) 上掲史料2の都市特権確認文書には明記されていない。ティエボ・ド・ルジュモン (Thiébaud de Rougemont)。プザンソン大司教の在位は1405年～1429年9月16日。HOURS, H., *Fasti ecclesiae gallicanae. Répertoire prosopographique des évêques, dignitaires et chanoines de France de 1200 à 1500*, t. IV, *Diocèse de Besançon*, Turnhout, Brepols, 1999, p. 66.
- 39) 上掲註22参照。
- 40) 上掲註23参照。
- 41) 上掲註24参照。
- 42) 上掲史料2の都市特権確認文書には明記されていない。ジャン・ド・ブレズイ (Jean de Blaisy / Blaizy)。BONENFANT, P., *Philippe le Bon. Sa politique, son action, études présentées par A. M. BONENFANT-FEYTMANS*, Bruxelles, De Boeck, 1996, p. 202 ; CARON, M.-Th., *La noblesse dans le duché de Bourgogne (1315-1477)*, Lille, PU de Lille, 1987, p. 156, 222-223.
- 43) 上掲註25参照。
- 44) 上掲註26参照。
- 45) 上掲註27参照。
- 46) 上掲註30参照。
- 47) 上掲註32参照。
- 48) 上掲註28参照。
- 49) 上掲註29参照。
- 50) 上掲註31参照。
- 51) 上掲註33参照。
- 52) 上掲註34参照。
- 53) 上掲註35参照。